

平成26年度（2014年度）
学校関係者評価委員会報告書

2015年8月

学校法人 新潟高度情報学園
新潟高度情報専門学校

会議議事録

会議名	平成26年度 学校関係者評価委員会
開催日時	平成27年8月25日（火曜日） 11：00～12：20
場 所	一ノ 3F 会議室 新潟市中央区東堀通9番地1395 電話番号 025-229-1551
出席者	① 委員 守橋 主 氏（システム・アナライズ株式会社 新潟営業所長代理） 後藤 彰宏 氏（株式会社マルス） (計2名) ② 学校 石澤 直樹（新潟高度情報専門学校長） 亘 英一（新潟高度情報専門学校 教務課長） 山田 賢一（新潟高度情報専門学校 教務課長） 金子 貴之（新潟高度情報専門学校 教務課長） (参加者合計6名)
議題等	1 開 会 2 平成26年度自己点検・自己評価結果の説明・審議 3 重点事項の改善について 4 意見交換 質疑応答 詳細は、別紙のとおり 5 石澤学校長挨拶 6 閉 会 以上

別紙

I 重点目標について

重点目標①について

産学連携、地域連携の強化およびカリキュラムの充実を図る。

当校の教育方針である、「技術者の養成に合わせ、教養・人格度の高い道義・礼節・作法をも身につけた人間性豊かな技術者および、人材を育成する」を実現するため、協力企業の連携を強化する。これにより、学校での学びの他に、最前線で活躍される方たちより技術的指導・実践的なアドバイス、顧客と関係性・折衝・矜持など、机上では理解が及ばない真剣さ、仕事・職業人としての大切なことを、実践をもって理解できる環境を学生に提供する。

高度情報システム科・情報システム科では、企業インターンシップを行う科目を設置。協力企業先で現場の技術者の方に評価して頂く機会を設けたことで、より実践的な職業教育を行った。次年度、情報工学科でも開講する為、検討・交渉を進めている。アクティブラーニングベースの授業として、また、学年や年度を跨いで取組むことができる仕組みとして計画している。ゲーム系学科は今年度も、新潟市内のゲーム開発会社の協力を得て、ゲーム制作に関わる授業や作品評価を実施。プロ目線での講義や評価により、学生の技術や意識の向上にもつながっている。

校外活動・ボランティアとして学校・学位は、新潟市南商工振興会との協働による鳥屋野潟を中心とした町おこしイベントに関わるプロジェクトや、新潟市の潟開発研究所の新潟市学術研究として、鳥屋野潟の調査に協力している。また、地域貢献の一環として学校周辺の住民を対象にPCサポートを実施。実施内容も踏まえ、次の開催に向けて準備を進めたい。他、新潟市生涯学習センターとの協働で市民を対象とした各種パソコン教室も継続実施し、毎回定員を上回る応募がある人気の講座となっている。

重点目標②について

ネットワーク環境の整備を図る。

ハード面では、施錠可能なサーバールームを新設作成し、今まで教務室内に設置されていたサーバ機材を移設した。その際に物理的なネットワーク環境の整備も行った。

又、サーバールームは1面ガラス張りにし、各サーバの説明ポスターを掲示することにより、学校説明会参加者向けに見せる工夫も施してある。

ソフト面の問題として、学生などの個人情報を扱う上で教職員の情報管理意識が低いことが挙げられる為、今後セキュリティポリシーを策定しルール化することで、モラルハザードを抑止し適正な情報管理をしていく必要がある。

重点目標③について

防災対策・計画を整備する。

防災緊急放送に対応する全館放送設備を整えた。新潟市のハザードマップや防災に関する資料等から学校周辺の防災に対する状況を確認したが、具体的な防災計画は策定中であり、学校運営、人命にかかわるので早期策定を進めたい。

重点目標④について

成績処理システムの改修または移行計画を進める。

現行のExcelVBAを使用したシステムをベースに、毎年マイナーバージョンアップを繰り返しているが、昨年度から単位制に移行したこともあり、今後システム改修やパッケージ導入についても継続して検討していく。

又、学生の就職活動に関わる情報のシステム化整備が進んでおらず、過去の情報が有効活用されていない為、就職情報のシステム化を推進し、現状を改善していく必要がある。

II 各評価項目について

1 教育理念・目標

学校関係者評価委員会・教育課程編成委員会の各委員の方々との協力関係を強化し、今後も各課題に取り組む。また、問題点を掘り下げ、学校の対応できる幅を広げていく。自立できる学生を育成するため、PBLやアクティブラーニングなど学生が能動的に動く授業形態の構築を進める。

保護者への学校情報の提供内容の検討、卒業生との連携、卒業生の所属する企業へのアンケート等を通して、各種情報収集を行い学生指導に役立てることを検討する。

2 学校運営

学校運営における、制度・仕組みは整備されており、それらに則って行動している。

職業実践専門課程、単位制に合わせた、学務システムの整備を進めている。現行の学務システムの改修、合わせて、セキュリティポリシーの見直し、セキュリティポリシーに則った運営を行うための整備を進める。また、学生用グループウェアシステムの利便性を強化する。

3 教育活動

職業実践専門課程としての充実を図る。

情報工学科では、これまでのPBLや教育連携企業による職業実践教育を目指した授業の経験から、新潟高度情報専門学校の特色として、アクティブラーニングによる新たな科目の設置準備をすすめる。また、教員や学生の興味、探求心に対応できる様、ミーティングや実践ができる教室の設置、機器・機材、書籍の充実をすすめる。授業外でも、積極的に新潟市や新潟市南商工会議所と連動した地域イベントなどにボランティアとして参加し、ロボットコンテストやパソコン教室といったコンピュータを通して、小・中・高校生や地域の方達との交流にもつながっている。

高度情報システム科・情報システム科で、職業実践教育としての科目をより実践的となるよう検討する。また、新たな知識・技術・指導力のために研修などに参加し、教員の育成を図っている。しかし、個々で得た知識の組織間の共有が報告書の回覧にとどまっている為、内部研修を実施する等機能させたい。

ゲーム開発研究科・専門科・技術科では、業界経験者のOBを採用することができた。これにより、新たなハードウェア上でのゲーム開発力が向上した。

情報ビジネス科では、学生の入学に至る経緯や将来への目標が定まっていない学生もいるが、IT活用を中心に据えカリキュラム編成を行う。他学科と比べ、全学生の希望職種に対応するカリキュラムと目標の定まらない学生を含めたカリキュラムの構築に苦慮している。ビジネス・職種に特化した科目については、専門の人材から授業を実施してもらうことで、履修科目の専門性を高めている。

【 質問 】

外部での研修に参加した場合、そこで得た知識等は学校内でどのように活用されているのか。

【 応答 】

報告書回覧による共有は行っているが、知識・技術の向上のための内部研修まで行うことはしていない。研修内容を確認し、内部研修を行い知識・技術の共有を行いたいと思う。

4 学習成果

卒業生との関係性が弱いと感じられる学科もあり、卒業生からの声が集まり易い環境を作ることを検討。更に、卒業生が在籍する企業との連携強化を検討する。

早期内定が円滑に行われる様、目指す社会人となるための指導と、将来学生が取り組みたい課題への取組や研究が在学中から行えるよう、環境・機材等の充実を図る。

卒業生との連携、卒業生が入社した企業からの情報収集、連携を図るためアンケートの実施等を行い連携のとりかかりとする。

e-learning を活用し試験対策を行った教科目があるが、学科により活用の不十分さが感じられた。効果を得る為に改善策を検討したい。

コミュニケーションが不得意な学生への対応に改善の余地が見られる。退学につながらない様、引き続き担任・学科・学校として注視する姿勢が重要である。

【 質問 】

- ・インターンシップの実施は、就職につながるのか。企業にメリットがあるのか。
- ・卒業生との接点として、コミュニケーションを取りやすい様、SNS等を活用してはどうか。ただし、卒業生が利用するとしても、交流だけでなく、何かしらのメリットが必要となるかもしれない。

【 応答 】

- ・学校としては、インターンシップは就職内定と関係ないことを前提に取り組んでいる。しかし、企業としては、若者の柔軟な発想を会社にとり入れるや、また経団連倫理憲章の変更に伴い、早期に学生との接触を図るためインターンシップやイベント等を行っている節も感じられる。
- ・指摘の通り SNS を活用したコミュニティーの作成、そのうえで利用する者のメリットとなるような仕組みも検討したいと思う。

5 学習支援

学生が自分の目的の為、自発的に放課後に学習・研究を進められる様な環境を用意し学習成果につながる環境支援を検討している。

姉妹校にいるカウンセラー(臨床心理士)の協力を得て、精神的な問題を有する学生への対応強化。保護者アンケートの実施結果を真摯に受け、必要なフォロー等対応を検討する。卒業生との連携を検討し在校生への情報提供につなげたい。

6 教育環境

概ね良好。

防災マニュアルの改訂を進める。

7 学生受入れ募集

定員を充足する為、今後も各種説明会等の機会を増やし、当校の特色を正しく理解していただく。

新学科の設置を検討する。

8 財務

次年度より、公認会計士・監査法人による外部監査を行う。

9 法令等の遵守

特になし。

10 社会貢献・地域貢献

地域に根差したパソコン講座を実施した。学生が主体となり運営し、参加学生にとって良い機会となった。他、新潟市や地域からの要請により特別授業やイベントでの学習講座、コンテスト運営等を継続して行っている。参加学生も徐々に増えてきている。